1. 観光客数
2. 観光資源.
   観光施設
3. 宿泊施設と利用者数

1. 観光客数

国民全体の観光レクリエーション量を正確に把握することはきわめて困難であるが、日本観光協会が行っている「国民の観光に関する動向調査」(全国の18歳以上の男女の標本抽出調査)によると、1974年の宿泊をともなう観光旅行の参加者の割合は53%、参加者の年平均旅行回数は1.9回、平均宿泊数は1.9泊、その行先が自県内のものは15%、自県をふくむ自地方内のものは50%で、旅行目的は慰安旅行が42.5%である。

日帰り観光レクリエーションには、標本数の約65%の人が参加しており、年平均回数は4.8回、その行先は自県内が57.6%である。

日帰りレクリエーションと、宿泊観光旅行の回数の比はおよそ7:3である。

〔凡例と作図の要点〕

この図は、1973年の主要観光地ごとの観光客数(入込総数)を客数に応じた大きさの円記号で表示した。

観光地の選定基準は、県によりことなり、行政区画ごと、自然公園別、ブロック別、個々の観光地ごとなどまちまちである。十和田湖、蔵王などのように、観光地が2県以上にまたがり、観光客数の統計が別々に示されているものについては、それぞれに記号を表示した。

観光客数は、日本観光協会が各県に照会した都道府県別観光客入込数である。しかし静岡、奈良、高知、宮崎、鹿児島、沖縄の各県の観光客数は推定数あるいは他の資料にもとづいた。

東京23区と大阪府の観光客数は資料を入手できなかった。

〔資料〕

1．日本観光協会，昭和50年版観光要覧
2．日本観光協会，昭和50年3月観光の実態と志向

2. 観光資源

観光の対象となる自然系資源は、植物が全体の約4分の1をしめ、つぎに温泉、山岳、河川景観の順となっている。

人文系資源は、行祭事がもっとも多く、全体の約2割をしめ、つぎに社寺・史跡、味覚の順となっている。

〔凡例と作図の要点〕

この図は、1974年10月現在の観光資源の数を自然系と人文系に大別して、その数に応じた大きさの半円記号を組合せて表示した。この統計資料は、観光資源に相当するか否かの判定を、市町村と都道府県が実施したため、その採用の基準は都道府県ごとに若干くい違うと考えられる。

〔資料〕

1．日本観光協会，観光資源・施設の分布状況調査報告書，1975

2. 観光施設

飲食・休憩・展望施設のうち、各県を通じてもっとも多いのはドライブインで、自動車旅行の普及や生活の向上にともなう食生活の多様化などによって、食事・休憩関係の施設の伸び率が高く、施設数の約7割をしめる。なかでもドライブインは1966年の約7倍の増加となっている。

スポーツ・レクリエーション施設のなかでは、キャンプ場がもっとも多く、つぎに公園、ハイキングコース、観光農林業、観光漁業、ゴルフ場の順となっている。キャンプ場は1966年の2.8倍、1971年の1.5倍、ゴルフ場はそれぞれの年の2.5倍、1.8倍の増加を示し、スキー場は1966年の1.4倍に伸びている。

交通施設のうち営業所関係ではレンタカー(乗用車)の営業所が大半をしめ、とくに北海道と東京都に多い。その台数は1964年の約3,300台から、1974年には14,500台と伸びてきている。最近の傾向としてレンタサイクルが増加しつつある。索道等のうちリフトの伸びが大きく、長野、新潟、北海道などスキー場の多い県の設置数が多くなっている。

〔凡例と作図の要点〕

1974年10月現在の観光施設等を4種類に大別して、その数に応じた大きさの4分円記号を組合せて表示した。この観光施設の選定は、市町村と都道府県が実施したため、その採用の基準は都道府県ごとに若干くい違うと考えられる。

それぞれの観光施設の内訳はつぎのとおりである。

飲食・休憩・展望施設：ドライブイン、郷土料理店、レストラン、ヘルスセンター、展望施設(展望地)

スポーツ・レクリエーション施設：サイクリング・ハイキング・オリエンテーリング等のコース、自然歩道・自然研究路、キャンプ場、ゴルフ場、スキー場、海水浴場、マリーナ・ヨットハーバー、観光農林業(みかん園など)、観光漁業(釣り場など)、レジャーランド、公園など

交通施設：船舶航路・航空路・観光バスの定期路線、貸切バス・遊覧船・遊覧飛行・レンタカー・レンタサイクルの営業所、モノレール・ケーブルカー・ロープウエイ・リフト(夏期にも使用するもの)の設置数

観光関係団体：観光協会(連盟)、旅館組合、民宿組合、その他

〔資料〕

1．日本観光協会，観光資源・施設の分布状況調査報告書，1975
2．日本観光協会資料

3. 宿泊施設と利用者数

わが国の宿泊施設は1971年現在8.1万軒で収容力は295万人である。

種類別宿泊施設は、ホテル740軒(収容力11.7万人)、旅館58,400軒(211.4万人)、寮・保養所4,600軒(18.8万人)、ユースホステル530軒(3.6万人)、国民宿舎440軒(4.7万人)、民宿16,000軒(44.6万人)である。

都道府県別の宿泊施設は、長野県4,599軒、東京都4,414軒、北海道4,326軒、静岡県4,136軒の順に多く、またその収容力は、長野県が217,400人、静岡県が169,600人、北海道が163,000人、東京都が145,800人、兵庫県が140,000人、新潟県が133,400人、千葉県が127,600人などである。

これらの宿泊施設を利用した人は1970年12月から1971年11月までの1年間に2億9000万人で、そのうち東京都が2067万人、静岡県が1827万人、北海道が1656万人、長野県が1300万人、群馬県が1185万人などである。

都道府県別の宿泊施設の年間利用率は全国平均27.3%で、群馬県53.4%、東京都43.7%、広島県40.2%などが高く、福井県12.8%、千葉県14.7%、徳島県14.9%などが低い。

宿泊施設の種類別利用率は、ホテルがもっとも高く、つぎに旅館、国民宿舎、寮・保養所がほぼ同じ割合でつづき、ユースホステル、民宿の順となっている。また宿泊施設の月別利用率は、ホテル以外は7・8月にもっとも高く、とくに、国民宿舎、ユースホステルで高い。

〔凡例と作図の要点〕

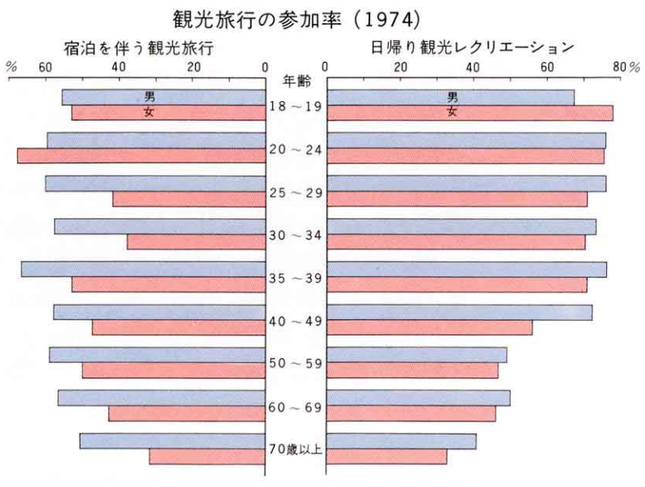
宿泊施設の年間利用者数と年間収容力人員を、それぞれの数に応じた大きさの半円記号を組合せて表示した。年間収容力人員は1日あたりの収容力人員を360倍(30日×12か月)して算出し、利用率は年間収容力人員にたいする年間利用者数の割合とした。

宿泊施設は、下宿や簡易宿所を除く不特定多数を有料で宿泊させる施設である。ホテルとは洋室(ベッドを使用して宿泊するもの)が50%以上をしめる宿泊施設のことである。また国民宿舎は公営の宿泊施設に限定し、ユースホステルは民間経営のものが含まれた統計となっている。

〔資料〕

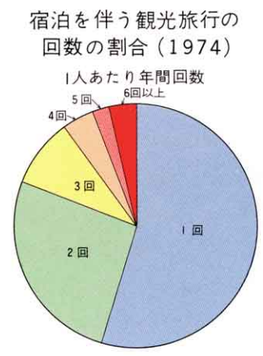
1．日本観光協会，昭和48年5月宿泊統計

観光旅行の参加率(1974)



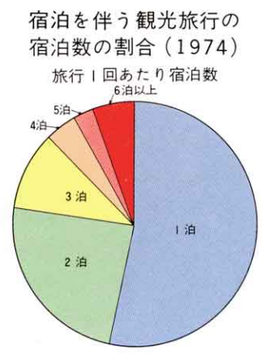
(日本観光協会資料から作成)

宿泊を伴う観光旅行の回数の割合(1974)



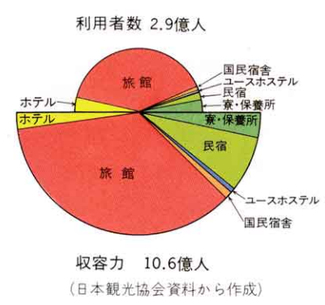
(日本観光協会資料から作成)

宿泊を伴う観光旅行の宿泊数の割合(1974)



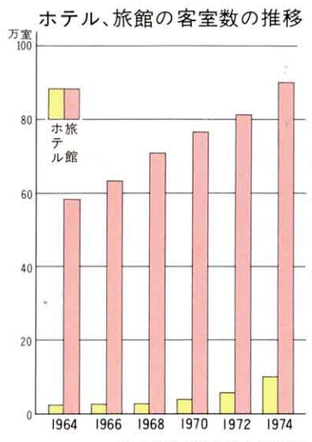
(日本観光協会資料から作成)

宿泊施設の年間利用者数と収容力人員の割合(1971)



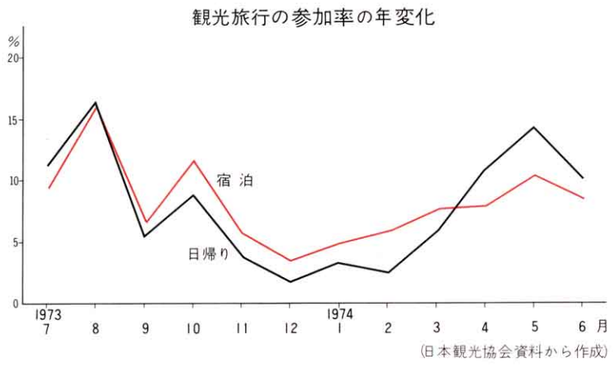
(日本観光協会資料から作成)

ホテル、旅館の客室数の推移



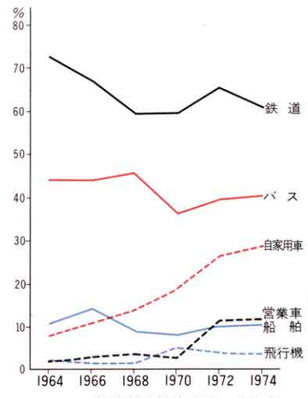
(日本観光協会資料から作成)

観光旅行の参加率の年変化



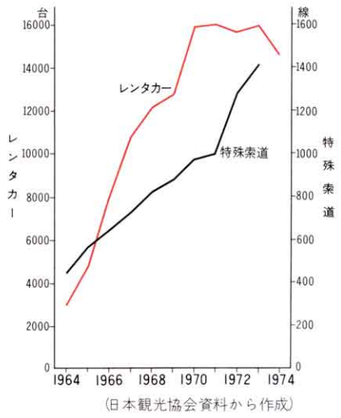
(日本観光協会資料から作成)

宿泊を伴う観光旅行の利用交通機関の推移



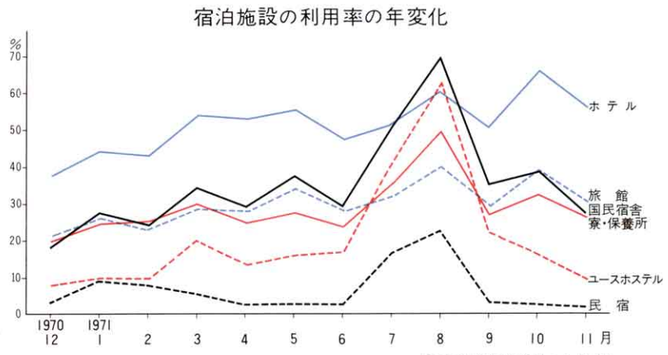
(日本観光協会資料から作成)

レンタカー(乗用車)の台数と特殊索道の路線数の推移



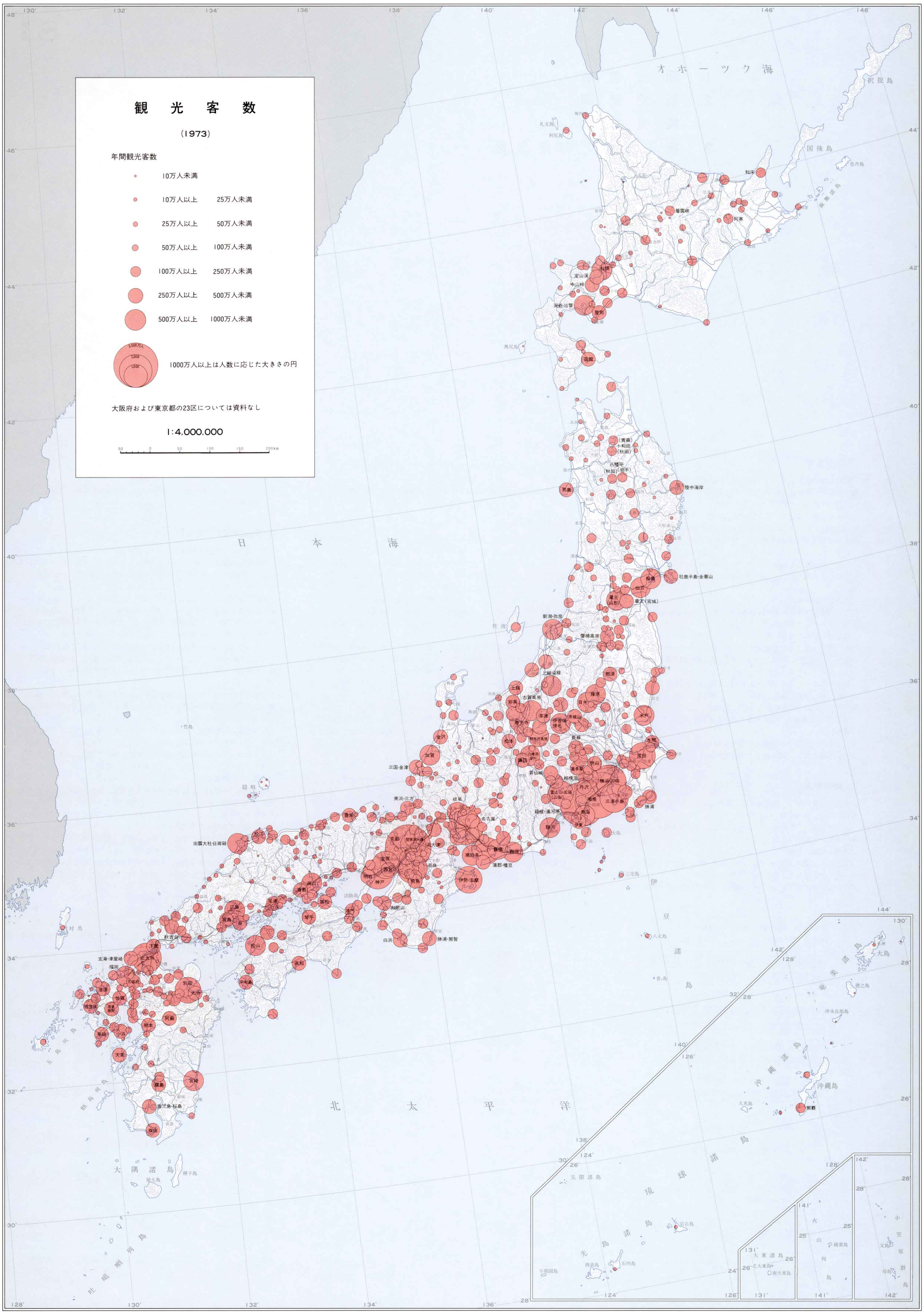
(日本観光協会資料から作成)

宿泊施設の利用率の年変化

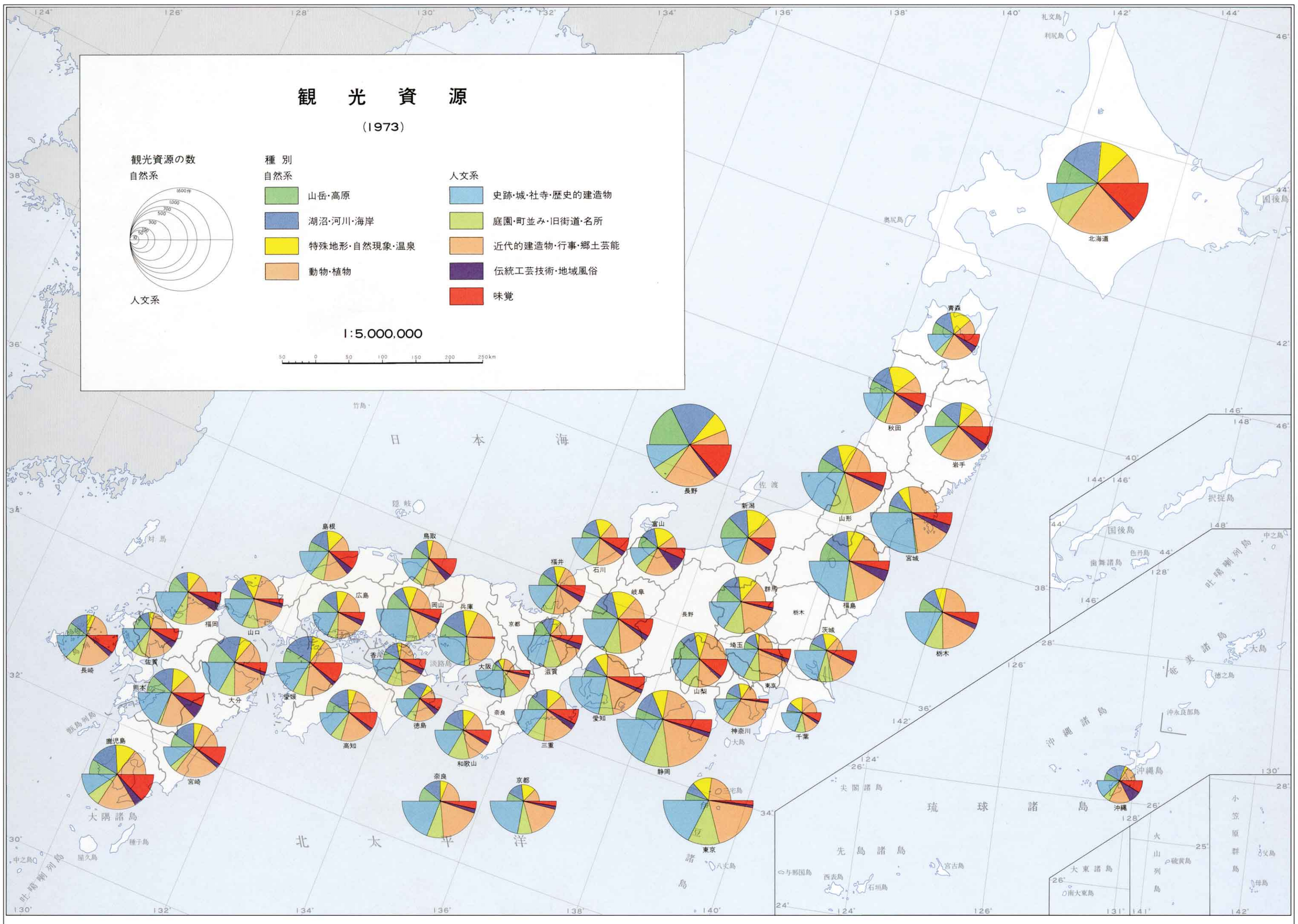


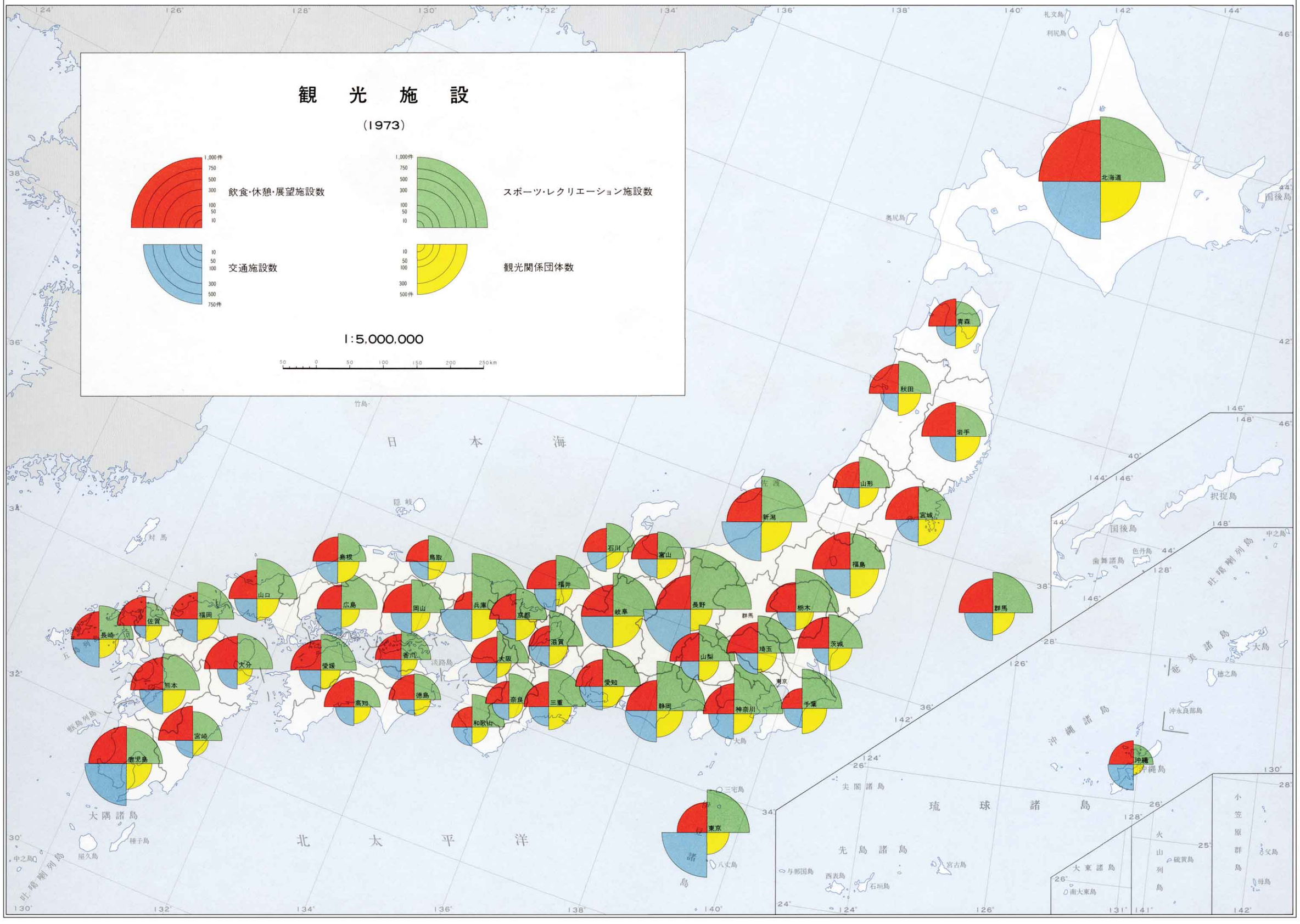
(日本観光協会資料から作成)

81.1

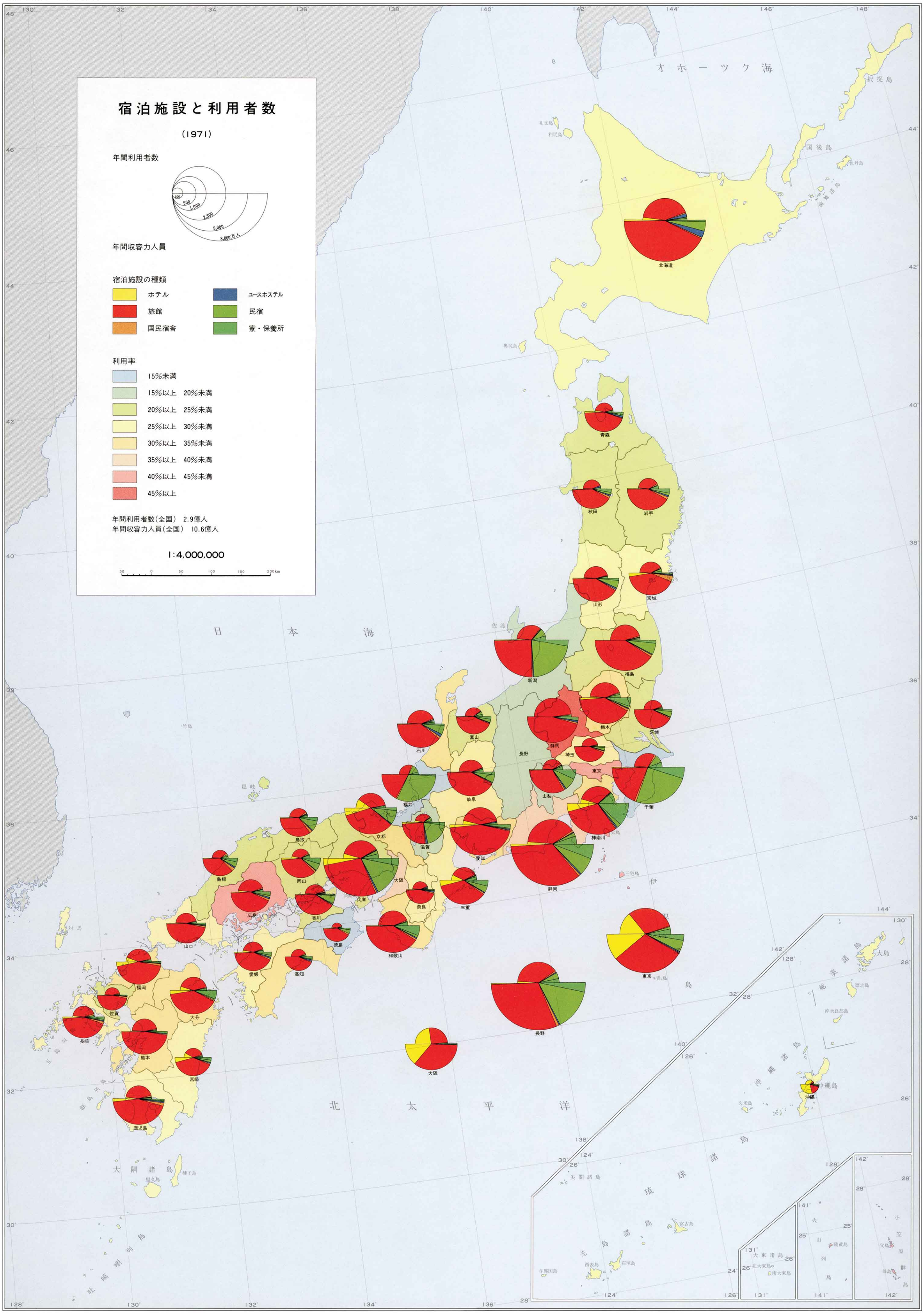

観 光 客 数
(1973)
年間観光客数
10万人未満
10万人以上 25万人未満
25万人以上 50万人未満
50万人以上 100万人未満
100万人以上 250万人未満
250万人以上 500万人未満
500万人以上 1000万人未満
1000万人以上は人数に応じた大きさの円
大阪府および東京都の23区については資料なし
1:4,000,000
オホーツク海
日本海
北太平洋
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
知床
層雲峡
阿寒
札幌
定山渓
中山峠
洞爺・壮瞥
登別
函館
(青森)
十和田
(秋田)
八幡平
(秋田)(岩手)
男鹿
陸中海岸
松島
牡鹿半島・金華山
仙台
蔵王
(山形)
蔵王(宮城)
新潟・弥彦
磐梯高原
上越海岸
那須
上毛
志賀高原
妙高
日光
草津
赤城山
伊香保
榛名
水戸
金沢
松本
長野
水郷
加賀
諏訪湖
成田
三国・金津
昇仙峡
秩父
湯多野
相模湖
横浜・川崎
富士山・五湖
(山梨)
丹沢
雨南
三浦半島
勝浦
箱根・湯河原
熱海
伊東
美浜・三方
岐阜
名古屋
駿河
豊岡
出雲大社・日御碕
松江
京都
琵琶湖水郷
近大津
宝塚
西宮
奈良
南知多
浦郡・幡豆
明石
神戸
鳥羽
伊勢・志摩
岡山
倉敷
尾道
高松
広島
宮島
琴平
和歌山
白浜
勝浦・那智
秋吉台
下関
北九州
玄海・津屋崎
福岡
太宰府
唐津
別府
大分
佐賀
佐世保
阿蘇
熊本
長崎
小浜
天草
霧島
宮崎
鹿児島・桜島
指宿
沖縄島
那覇
久米島
宮古島
石垣島
西表島
与那国島
尖閣諸島
大東諸島
北大東島
南大東島
硫黄島
父島
母島
小笠原群島
大隅諸島
種子島
屋久島
対馬
隠岐
竹島
佐渡
伊豆諸島
八丈島
青ヶ島
小笠原諸島
大島
徳之島
沖永良部島
沖縄諸島
琉球諸島
先島諸島
大隅諸島
吐噶喇列島
五島列島
薩南諸島

81.2


観　光　資　源
(1973)
観光資源の数
自然系
人文系
種 別
自然系
山岳・高原
湖沼・河川・海岸
特殊地形・自然現象・温泉
動物・植物
人文系
史跡・城・社寺・歴史的建造物
庭園・町並み・旧街道・名所
近代的建造物・行事・郷土芸能
伝統工芸技術・地域風俗
味覚
1:5,000,000
日本海
北太平洋
琉球諸島


観　光　施　設
(1973)
飲食・休憩・展望施設数
スポーツ・レクリエーション施設数
交通施設数
観光関係団体数
1:5,000,000
日本海
北太平洋
琉球諸島

81.3


宿泊施設と利用者数
(1971)
年間利用者数
100
500
1,000
2,500
5,000
8,000万人
年間収容力人員
宿泊施設の種類
ホテル
旅館
国民宿舎
ユースホステル
民宿
寮・保養所
利用率
15%未満
15%以上 20%未満
20%以上 25%未満
25%以上 30%未満
30%以上 35%未満
35%以上 40%未満
40%以上 45%未満
45%以上
年間利用者数(全国) 2.9億人
年間収容力人員(全国) 10.6億人
1:4,000,000
オホーツク海
日本海
北太平洋
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
礼文島
利尻島
奥尻島
佐渡
隠岐
竹島
対馬
五島列島
甑島列島
大隅諸島
種子島
屋久島
吐噶喇列島
伊豆諸島
大島
三宅島
青ヶ島
小笠原群島
父島
母島
南西諸島
奄美諸島
徳之島
沖永良部島
沖縄諸島
沖縄島
久米島
宮古島
石垣島
西表島
与那国島
尖閣諸島
北海道
青森
秋田
岩手
山形
宮城
新潟
福島
栃木
茨城
群馬
埼玉
東京
千葉
長野
山梨
神奈川
富山
石川
福井
岐阜
滋賀
愛知
静岡
三重
京都
大阪
奈良
和歌山
兵庫
鳥取
島根
岡山
広島
香川
徳島
愛媛
高知
山口
福岡
佐賀
大分
長崎
熊本
宮崎
鹿児島
沖縄